

○11月8日(土)～9日(日) 令和7年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練

【主催】総務省消防庁、大分県実行委員会(委員長:県防災局長)

【場所】大分スポーツ公園 など

【参加者】九州各県緊急消防援助隊、大分県常備消防相互応援協定に基づく県内応援隊 など

○11月8日(土)～9日(日) 令和7年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練

【主催】大分県

【場所】県庁舎、病院 など

【参加者】九州・沖縄各県DMAT約100チーム 600名程度
県内医療機関及び各関係機関 など

○11月24日(月・祝) 令和7年度大分県・東部地区総合防災訓練

【主催】総合防災訓練実行委員会(会長:杵築市長)

【場所】杵築市、別府市、国東市、姫島村、日出町

【参加者】消防本部、大分県警、自衛隊、海上保安庁、協定団体、住民 など

○2月9日(月)～10日(火) 令和7年度九州管区広域緊急援助隊合同訓練

【主催】九州管区警察局

【場所】大分市内

【参加者】九州管区広域緊急援助隊、大分県緊急災害警備隊 など

令和7年緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練 概要

【緊急消防援助隊とは】

平成7年阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害等において被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から人命救助活動等を効果的かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するために創立されました。

(平成7年6月)

消防組織法第45条

(平成15年6月に法制化)

全国で7,086隊の登録があります。
(R7.4.1現在)

大分県は89隊の登録があります。



【訓練の目的】

- ①大分県の受援体制の検証
- ②緊急消防援助隊の活動能力の向上
- ③関係機関との連携強化



九州ブロック合同訓練の大分県開催状況

H10	H19	H27	R7
大分市	中津市	佐伯市	大分市
87隊 370名	131隊 539名	201隊 757名	251隊 796名

1 主催: 総務省消防庁

大分県実行委員会(委員長: 県防災局長)

2 実施日時: 令和7年11月8(土)・9(日)

8時30分から翌13時00分まで

3 訓練会場

メイン会場(大分スポーツ公園内H駐車場)

サブ会場(大野砕石有限会社戸次工場)

サテライト会場(ENEOS株式会社大分製油所、津久見港)

3 参加部隊

大分県常備消防相互応援協定に基づく県内応援隊、九州各県緊急消防援助隊、広島市消防局、陸上自衛隊、海上自衛隊、国土交通省九州地方整備局、第七管区海上保安本部、大分県警察本部、九州各県DMAT、大分市消防団、津久見市消防団

訓練想定

【地震・風水害】

大分県南部エリアを中心に局地的に猛烈な雨が長時間降り続いた。

更に11月8日(土)8時30分頃、大分県中部を震源とする震度6弱の地震(内陸型)が発生し、強い揺れが観測された。

この地震により、大分市の特別防災区域にて火災が発生しているほか、佐伯市・津久見市においても、複数の甚大な被害が同時多発的に発生している。

また、地震発生の翌日11月9日(日)には大規模な土砂災害が発生し、孤立集落から家屋の埋没など救助を求め要請が多数発生した。

危惧される被害

【地震】

- ・ 橋梁崩落・多重衝突事故
- ・ 道路の損壊
- ・ 孤立集落
- ・ 建物の倒壊
- ・ トンネルの崩落
- ・ 土砂埋没(車両・家屋)
- ・ 大規模火災
- ・ コンビナート火災

【風水害】

- ・ 堤防等の決壊(河川・池)
- ・ 道路の損壊
- ・ 土砂くずれ(車両・家屋)

訓練項目

図上訓練

部隊進出・輸送訓練(海上ルート)及び通信運用訓練等
部隊運用訓練(メイン会場)

- ・ 道路啓開、多重衝突事故救出訓練(津久見市内)
- ・ 倒壊病院救出訓練(大分市内)
- ・ 橋梁崩落救出訓練(大分市内)
- ・ トンネル崩壊多数傷病者救出訓練(津久見市内)
- ・ 大規模林野火災対応訓練(大分市内)
- ・ 応急救護所(各被災地)

部隊運用訓練(サブ・サテライト会場)

- ・ 土砂崩れによる斜面救出訓練(佐伯市内)
- ・ 土砂埋没家屋救出訓練(佐伯市内)
- ・ 孤立漂流者救出訓練、水没車両救出訓練(津久見市内)
- ・ 石油コンビナート火災対応訓練(大分市内)
- ・ 瓦礫下救出訓練(佐伯市内)
- ・ 孤立者救助訓練(佐伯市内)

後方支援活動訓練



